外国人による日本語弁論大会のあゆみ

日本が国際社会の一員として積極的にその意義と責任を果たすためには、日本人一人一人が諸外国の文化・伝統に対する理解をもつと同時に、日本に対する外国人の理解を深めることに努力を傾注しなければなりません。

この大会は、多くの外国人が日本語を話すことにより日本人および日本に対する理解を深め、わが国との友好親善、相互理解に寄与することを目的として1960年より毎年開催しています。39回（1998年）の岐阜市での大会以降は、それまでの東京開催から、各地の国際交流活動の活性化に伴い地方都市における開催を継続しています。コロナ禍での中断を経て、今大会は3年ぶり（有観客としては5年ぶり）の実施となり、小田原市の皆さまのご協力を賜り、開催できることとなりました。

本大会の模様は

11月30日（土）午後2時～2時59分 NHK Eテレで放送予定
「ワタシの見たニッポン 第63回外国人による日本語弁論大会」
※放送日時が変更になる場合があります。

次回64回大会のお知らせ

2025年12月6日（土）に東京都昭島市「FOSTERホール（昭島市民会館）」にて開催を予定しております。詳細が決まりましたら、一般財団法人国際教育振興会のWebサイトにてお知らせいたします。(www.iec-nichibei.or.jp)

ご来場の皆様へ

本弁論大会には、会場に主催者および日本放送協会（NHK）のカメラ数台が入り出場者だけでなく、会場内の様子も撮影いたします。
後日、大会ホームページ、NHK番組内で皆様のお姿が映ることもありますのでご了承下さい。

会場内での録音・録画・撮影は禁止です。携帯電話はマナーモードにするか電源をお切りください。

2024
The 63rd International Speech Contest in Japanese

聞いてください、私たちが見た日本、感じた世界。

第63回 外国人による 日本語弁論大会

プログラム

日時 | 2024年10月19日（土）13時開始

場所 | 神奈川県 小田原三の丸ホール

〈主 催〉

一般財団 国際教育振興会　JAPAN FOUNDATION 国際交流基金　神奈川県 小田原市

〈後 援〉

外務省／文部科学省／神奈川県／神奈川県教育委員会／小田原市教育委員会／公益財団法人かながわ国際交流財団／一般社団法人小田原市観光協会／小田原箱根商工会議所／NHK／NHKエデュケーショナル／日本語教育学会

〈助 成〉

一般財団法人 自治体国際化協会　この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成事業により実施されています。

〈協 賛〉

キッコーマン株式会社／専門学校新聞社／にほんごの凡人社／株式会社スリーエーネットワーク

プログラム

第一部
スピーチコンテスト

● 開会式 13:00~

お言葉　高円宮妃久子殿下

開会の辞　大谷 圭介 独立行政法人国際交流基金 上級審議役

主催者紹介、来賓紹介、出場者紹介、
後援・協賛団体紹介、ルール説明

● 前半 13:25~ 6名

休憩

● 後半 14:30~ 6名

休憩

第二部
忍者アクションショー 相州乱破衆 風魔
演目：―その忍び。風魔「宿命」15:40~

休憩

● 閉会式 16:30~

挨拶　鈴木 律子 外務省 大臣官房文化交流・海外広報課 課長

福田 和樹 文部科学省 総合教育政策局日本語教育課 視学官

審査員講評　西口 光一 審査員長

審査結果発表　外務大臣賞、文部科学大臣賞、小田原市長賞、会場審査員賞

閉会の辞　加藤 憲一 小田原市長

● 終了予定 16:50

●時間は進行により前後することがございます。

特別審査員
春香クリスティーン　タレント

審　査　員
審査員長
西口 光一　広島大学特任教授 日本語教育学会会長

審査員
鈴木 悌介　小田原箱根商工会議所 会頭
小田原海外市民交流会 会長

牧田 浩行　国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 学部長

守屋 博之　NHKコンテンツ制作局 第1制作センター
＜教育・次世代＞部長

司 会 進 行
金 侹希　徳島文理大学 国際部国際交流課 チーフアドバイザー
第51回日本語弁論大会文部科学大臣賞 受賞

（敬称略）

特別審査員
春香クリスティーン

1992年、スイス生まれ。
父は日本人、母はドイツ系スイス人。
2008年に単身来日し、タレント活動を開始。バラエティ番組や情報番組のほか、国会ウォッチャーとして報道番組や選挙番組などにも出演。
2018年にタレント活動を休業し、同年結婚し1児の母に。2022年に芸能活動を再開した。

第二部出演
相州乱破衆 風魔（そうしゅうらっぱしゅう ふうま）

戦国時代に小田原北条氏を影で支えた、風魔小太郎率いる乱破(らっぱ)と呼ばれし『風魔忍者』。その意思を受け継ぎ『NINJA』で小田原の観光を世界にPRすべく結成された忍者殺陣アクション集団。小田原城を拠点に様々な活動を行っている。

1.

シッデイーシュ ドテレ
- インド
- 会社員

時間に拘束された私
人前で話すのは苦手な私ですが、自分自身にチャレンジしてこの大会に応募しました。この大会に参加することで、会社でのプレゼンにもっと自信を持って臨めるようになると思っています。私が話す話題は、時間厳守を通じて自由な時間のバランスを上手に保ちつつ、自分のキャリアを成長させたいということです。そういったことを皆さんと共有したいと思っています。

2.

タチアナ ザハルチェンコ
- カザフスタン
- 日本国際工科専門学校
- 日本語学校生

こだわり
ザハルチェンコタチアナと申します。去年の3月にカザフスタンから来ました。最近は日本語と簿記を頑張っています。キャンプが大好きです。日本はキャンプ場が多いので様々な美しい自然の景色を見に行くつもりです。
スピーチでは、私の考える日本人のこだわりについて話します。他の参加者と知り合いになり知識や経験を共有できることも楽しみにしています。

3.

アイザック キャラウェイ
- アメリカ
- 横浜デザイン学院
- 日本語学校生

井の中の蛙
人は環境によって、考え方が異なります。私は田舎育ちで、その環境での考え方に大きく影響を受け、夢を諦めてしまったことがあります。しかし、日本に来て、たくさんの人と話し、たくさんの新しい経験ができ、私の人生は大きく変わりました。自分の環境を否定せず、それを活かすことが自分の成長に繋がると思います。環境が限られていても、その引き出し方によって、自分自身の才能には制限がないはずです。

7.

ナディア アミン
- インドネシア
- 岐阜大学大学院
- 大学院生

友達とは何か
6歳の頃から、両親の仕事や留学の関係で、さまざまな国や地域で生活してきました。文化や価値観によって「友達」の定義が異なることに気づき、意識するようになりました。特に日本では、友達になるためには慎重なプロセスが重要だと感じることが多いです。言語を学ぶことが好きで、言葉を通じて文化や人間関係の捉え方が表現されることにも興味があります。「友達」とは何か、その必要性について共に考える機会になれば嬉しいです。

8.

ムハンマド ヤシーン ハシーブ ヤシーン
- エジプト
- 英語教師

スウィートメモリー
私はヨーロッパのサッカーを見るのが好きです。来日してからは時差があるため、見ることができなくなりました。その代わりに、時間がある時はボランティア活動に参加して知らない人と話をすることが好きになりました。
私がこのスピーチコンテストに参加したのは、異文化経験を共有し日本とエジプトの懸け橋としての役割を果たしたいと考えたからです。異文化理解を深めることがこれからの多文化共生社会において重要だと考えています。

9.

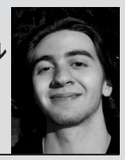
マリエ ロマノ
- アメリカ
- アルバイト

お茶畑で見つけた宝物
中学生の頃、初めて抹茶を口にし、その魅力に心を奪われました。アメリカ・テキサス大学では日本語を学びながら、日本文化やお茶についての知識を深めました。大学卒業後は日本でお茶の産地を訪れ、栽培や生産の現場を体験し、京都の和束町で3ヶ月間お茶農家のインターンとして働き、茶葉の収穫や製茶の技術を学びました。今後は、日本茶に関する課題の研究とその解決に取り組みつつ、多くの人に日本茶の魅力的な世界を広めていきたいと考えています。

4.

サミル カエスタ
- ネパール
- 会社員

家族
「家族」という言葉は、本当に奥深いもの。世界最高峰のエベレスト山があるネパールで生まれ育った私は、「小さなものの中にこそ、より大きなものがある」という信念を持って生きてきました。この考え方は「家族」という概念にも当てはまると思います。来日して8年が経ちます。この場を借りて私が感じたことや学んだこと、そしてこれまで受けた全てのものに対して感謝の気持ちを伝えたいです。

5.


ムハンマド ヒシャム アルメイル
- シリア
- 日本国際工科専門学校
- 日本語学校生

私が見る幸せ
ヒシャムアルマーと申します。
私はこの4月に日本に来ました。シリア人で20歳です。趣味はゲームとスポーツです。たくさんの人に気持ちや考えを共有することが、大切なことだと思っています。それと、人前で上手に話せるようになりたいのでこのスピーチコンテストに応募しました。
日本に来たらたくさんのことがはじめてですが、頑張ります!
どうぞよろしくお願いいたします。

6.

リ フェリス ルォチェン
- 中国
- 赤門会日本語学校
- 日本語学校生

お雑煮のように
私は、日本語を学んだことをきっかけに、これまでに神田明神や東京五輪の選手村での勤務をはじめとした様々な貴重な体験をしてきました。世界中において多様な背景を持つ人々と交流する中で、「日本人」が国籍や言語の枠を超えた存在であると実感しました。特に、お正月に異なる地域のお雑煮をいただくことで、日本文化の多様性と柔軟性を肌で感じました。この場をお借りして、多文化共生の大切さを皆様に共有させていただきたいと思います。

10.

ドン フン タオ
- ベトナム
- 川崎市
- 国際交流員

新しいボランティア活動
大学生時代に奨学生として奨学金財団の例会に参加した際、日本人の方々の国際貢献活動を見てとても感心しました。自分もいつか国際貢献できる人になりたいと思いました。現在、SNSを通じて日本社会の情報を在日ベトナム人に向けて発信しております。最初何回も諦めかけましたが1年間続けて良かったと思いました。今後も日本で役に立つ情報を発信していきたいです。

11.

ファーガル クイン
- アイルランド
- 英語教師

私の名前は…
私はアイルランドの小さな海辺の町で生まれ育ちました。地元では、日本のような遠い場所に移住して、このようなコンテストの機会を得る人はあまりいないのでとても嬉しいです。本当は 2020年に日本へ来る予定でしたが、コロナの影響で来られませんでした。一生懸命努力し続ければ誰でも夢を叶えることができると信じています。スピーチを通じて一人でも多くの人の心に響けば、それは私にとって大きな意味があります。全力を尽くして頑張ります。

12.

クリストファー リナルディ
- アメリカ
- 徳之島町
- 国際交流員

おぼらだれん
私はNY出身ですが都会の生活に不満を覚えてNYから出ようと思いました。日本の文学と昭和の音楽に惹かれて日本に興味を持ち日本語を勉強しました。孤軍奮闘の5年間を経て、2年前に憧れの日本に来ることができましたが、離島に住むことになるとは思いませんでした。この島で僕の人生は大きく変わりました。都会でせわしく働いている人が僕の話を聞いて励まされたら嬉しいです。そして皆さんに「おぼらだれん」という言葉をあげたいです。